

潮音寺だより

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

第 291 号
平成 20 年 1 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail: choonji@aichi.email.ne.jp

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11



盆画：小島とよ子

頌春

新たな年
神仏に
何を望まん

あれもこれ
これもあれ

自分都合の
ご利益ばかり

かな
叶わぬ願い
過誤失態は
身から出し鑄なれど

「神も仏も
あるものか」の
捨て台詞

ご利益は
貰うものではなく
与えるもの

善きことを思い
善きことをなし
善き縁をいただこう

正法を耳にする

昔、ヘルシヤの王様が、多くの戦争体験を経る中、人生のむなしさを知り、人生とは何か、真剣に悩むところとなりました。王は、国中の学者を呼んで命じました。「人間とは何か、人生とは何か、教えよ」と。学者は、十年かけて、象三頭分の報告書を献上しました。王は多忙で読む時間がなく、要約するよう命じました。学者は十年かけて、象一頭分にまとめました。王はさらに要約を命じました。また十年後、ついに一卷に集約しました。

しかし、学者が王の下に呼び出された時、王はすでに死の床に伏しており、弱々しく「賢者よ、一言で人生とは何か、教えよ」と。

「人は生まれ、苦しみ、そして死にます」と、学者は答えました。王

様は、深くうなずき感謝したとい
いう……。

この話は、長い間語り継がれてきたからでしょう、いくつかのバリエーションがあります。しかし、「人は生まれ、苦しみ、そして死ぬ」という件はすべて共通しています。仏教でも、この世のことを娑婆(サンスクリット語で忍耐を意味するサハの音写、漢訳では忍土)といい、つまり、煩惱多き苦しみの世界としてとらえています。釈尊の出家の動機は、生まれ、老いて、病んで、死ぬという、実にこの「生老病死」の苦しみからいかに解放できるかでありました。

「四門出遊」という伝説によれば、釈尊がいまだ出家せず太子であつたとき、郊外の遊園に遊びに行くためにカピラ城の東門を出た

ところで老人に出会い、次に南門を出たときには病人に、さらに西門を出たときには死者の葬列に会つて、人生の無常の姿に深く動かされ、さらに北門を出たときに出家者(沙門)の堂々たる姿に出会つて、そこに自分の進むべき道を見出だされたと伝えていきます。

そして、今日、その苦しみからの解放の教えとして伝えられている仏典(經・論・律)は、象三頭分よりはるかに多く、ヘルシヤの王様ではありませんが、なかなか読み切れるものではありません。

ならば、どうして、数ある仏典の内でも最も釈尊のことばに近いとされている『法句經』をひもといてみますと、一八一番(友松圓諦訳)に、釈尊が到達された一つの答えを見いだすことが出来ます。

ひとの生を うくるはかたく
やがて死すべきものの
いま生命あるはありがたし
正法を 耳にするはかたく
諸仏の 世に出づるも
ありがたし

ヘルシャの学者の結論「人は生まれ、苦しみ、そして死ぬ」は、死ぬ間際の者に対しては有効かもしれないが、今生きている、これから生きねばならない者には、辛さだけが残ります。釈尊は、「人としてこの世に生まれ出でたこと、そして、どのような境遇、状態であれ、今生きていることはありがたいことだ」とおっしゃっています。人によつては、望みもしないのに生まれてきたとか、もつと頭が良く、美人に生んでほしかったと

か、中には、フランス人に生まれたかったなぞと、親に悪態を吐く者がいます。また、人が人の子として生まれることに何の不思議があるう、当たり前じゃないかという者もいます。

しかし、「望みもしないのに」とか、「当たり前」と思うところからは、道徳、宗教、学問も出てきません。「よくぞ生んでくれた」、牛豚犬猫でもなく、まして「キブリでもなく、有り難き」「善い縁をいただいた」と思うところに、生きる喜び（法悦）が滲み出てくるのです。

同時に、自分が、様々な人にこれまで受けた恩は数知れず、また、意識的、無意識、社会の仕組みで人を悲しませたことも数知れず、また、生きるためとはいえ、食事のたびに多くの命をいただかねばならぬ

というのが、我々人間であります。生きているということは、実は多くの罪を作っているということでもあります。そんな自分を許してくれている世間に対して、感謝せずにはおられないと受け取るのが、仏法、宗教であります。

そのような、世の中の道理を知り、生きる喜びをただける仏法は、ただ待っているだけでは聴くことは出来ません。また、聖徳太子は、『十七条憲法』の中で、「自分より英知がすぐれている人がいると喜ばず、才能がまさっていると思えば嫉妬する。これでは、賢人聖人も育たず、国も治まらない」といつておられます。残念ながら、今現在、釈尊はおられません、優れた人はいくらもいます。教えを請うことに躊躇があつてはなりません。

平成二十年度年回表

平成二十年度年回表						
・	一	周忌	平成十九年	・	二十三回忌	昭和六十一年
・	三	回忌	平成十八年	・	二十七回忌	昭和五十七年
・	七	回忌	平成十四年	・	三十三回忌	昭和五十一年
・	十三	回忌	平成八年	・	三十七回忌	昭和四十七年
・	十七	回忌	平成四年	・	四十三回忌	昭和四十一年
				・	四十七回忌	昭和三十七年
				・	五十回忌	昭和三十四年

◎年頭の挨拶

明けましておめでとうございます。旧年中は、特に、位牌堂落慶法要、併せて晉山式を厳修させていただきました。大変お世話になりました。

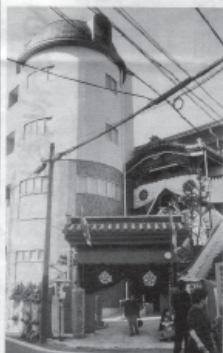
また、二十四世を継ぐにあたり、前住職同様、ご支援ご鞭撻賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

本年の年間行事は下段のとおりです。

12月15日付
中外日報

12月15日付

ドーム屋根の位牌堂
宗祖大遠忌記念し落慶



名古屋市・禅

屋根の形状に合わせた白いドーム形で、壁面から天井にかけての緩やかな曲面が印象的。採光窓も

宗教関係の新聞としては全国規模の有力紙です。

設けられ、開放感のある
明るい仕上がりとなって
いる―写真。設計・監理
は愛知県一宮の南宮野全
田設計（菅野茂司所長）。
田

同第百二十四世を継いだ末廣住持立彦は「諸法無常」という教への通り情情味や光住親、雪玄主との良縁、縁をいたないで生かされてゐる。位牌堂の新築も立派な建築家にも恵まれて感謝したい」と話してゐた。

◎平成二十年度の予定

- 3月20日(木) 春彼岸施餓鬼会
- 8月12日(火) 平和公園墓経
- 8月13日(水) 潮草寺牌堂墓経
- 8月19日(火) 盆施餓鬼会
- 9月23日(火) 秋彼岸施餓鬼会

雜記



▼
四代目

十一月二十八日、お陰様で
当山二十八世候補が誕生いた
しました。「道祥」と申します。
宜しく願います。

▼
猫

あまりに無虚(むそ)がひどいので、
キャットタワーを設置しまし

◆還曆也

無事願いつつ

去年今年
沐魚